



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.17
令和5年1月25日
文責：校長 福島

子供は風の子



昨日から強い寒波にすっぽりと覆われています。昼頃から降り出した雪によってあっという間に運動場は銀世界になりました。外気温はマイナス2℃。それでも昼休みになると子供たちは運動場にたくさん出てきます。

外の空気を吸おうと思い、カメラをもって運動場に行くと「校長先生ー！」たくさんの子供たちが私のところに集まってきます。雪が積もるとうれしくなるのでしょうか。かわいい子供たちです。でも私は寒さに凍えてしまい、すぐに校長室に引っ込みました。

レースのカーテンを開けて窓越しに無邪気に雪合戦をする子供たちを眺めていると、「校長先生ー!!」こちらでもたくさんの子供たちが声をかけてくれます。雪だるまをもってきてくれたり、雪うさぎも作ってくれたりしました。

こんな無邪気な子供の姿に触れるたびに「子供はこうでなくっちゃ。」と思います。様々な環境の変化に心を動かし、自分のやりたいことにエネルギーを思いきり発散させる。それを可能にする安心できる環境がある。

コロナ禍において、ここ数年子供のよさが発揮しづらい環境を強いられました。現在はだいぶ日常が戻ってきました。子供の成長にとって、会話や身体接触・相手の表情を見る等も含めたコミュニケーションは極めて大切なことだと考えます。コロナが2類から5類になるタイミングを大きな転換期ととらえ、国の動向をふまえながら子供の成長に必要な環境を一層整えていきます。